

きときと情報 2024 172号

富山県中小企業団体中央会

特集1 富山県における中小企業の労働事情について

特集2 中小企業組合のデジタル化・DX化推進事例

中小企業組合の地域貢献活動事例：富山県環境保全協同組合、富山県電気工事工業組合

経営者に聞く：桜井建設株式会社 代表取締役 大愛 富美子氏

組合紹介：協同組合富山のれん会さんよりこんにちは

中央会いんぷおめーしょん：第76回中小企業団体全国大会に参加しました ほか

表紙のことば 富山県の観光船

庄川峡遊覧船

庄川峡は1930(昭和5)年の小牧ダム完成とともに生まれたダム湖で、県定公園に指定されています。春の桜、夏の新緑、秋の紅葉、冬の雪景色といった四季折々に魅せる渓谷美と庄川の澄んだ流れが融合した風景が人気の観光スポットです。

庄川峡遊覧船は、1931(昭和6)年に就航を開始した庄川峡を周遊する観光遊覧船です。船でしか行けない温泉宿として有名な大牧温泉を巡る「大牧温泉コース」と、小牧港から長崎橋までを短時間で堪能する「長崎橋周遊コース」があります。どちらのコースも庄川峡が織り成す美しい風景を大パノラマで堪能できます。

デジタル地域通貨「ながおかペイ」で地域経済循環を！！

■背景・目的

当組合は、新潟県長岡市内で利用できる「長岡市共通商品券」を発行・管理する組合である。商品券の利用額は社会情勢の変化を受け、2005年の4億円をピークに現在は2億円ほどで推移している。このような状況下で、2022年11月に長岡市デジタル地域通貨「ながおかペイ」の運用が開始された。スタートから8か月経過した時点で、商品券の年間利用額を超える成果が出ている。

■取組みの手法と内容

本事業のきっかけは既存事業の衰退を危惧するなか、市内全域でポイント事業ができないかと始めた情報収集がきっかけである。本事業が市内全域で実施できるかや設備投資の補助金が得られるかなど長岡市と意見交換を進め、デジタル地域通貨に係る事業計画を作成した。事業計画をもとに長岡市が「デジタル田園都市国家構想推進交付金」を申請し、2022年4月に採択されたことを受け、本事業の構築に急ピッチで取り組んだ。

はじめに組合内部に行政・商工団体・地元企業で組織する「長岡市デジタル地域通貨協議会」を設置し、連携を図ったことで、スピード感のある事業構築が可能となり、交付金採択からわずか7か月でデジタル地域通貨「ながおかペイ」事業の開始にこぎつけることができた。組合事務局は2名体制だったため、課題であった「ながおかペイ」の認知度向上及び加盟店確保には大変苦労したが各団体との積極的な連携や広告宣伝により、現在では190店舗(令和6年11月現在)が加盟し、地域経済の循環を担う事業として成長している。本事業は関係機関が一致団結し、利用者と加盟店双方にメリットを訴求したことが成功の要因と考える。

今後は、行政の補助に頼らないビジネスモデルへの変革が急務となる。持続可能な事業となるには、大手企業が真似できない地域に特化した魅力的なキャンペーンを継続的に実施し、イベントとの連携や収集された取引データの有効活用を進めていくことが重要と考えている。また、人手不足を補うために中央会の支援を受け、業務効率化とコスト削減を目的としたシステムの導入を進めている。このような取組みを通じて、長岡市の欠かせない存在となることを期待している。

■成果とその要因

長岡市では近年、小売・飲食・サービス業を含めた事業所数の減少が続いている。今回の取組みでは若年者など新たな世代・新たな店舗を取り込み、多様な消費を喚起し、地域経済の活性化を図った。この成果は当組合の豊富な経験とノウハウ、そして行政をはじめとする関係機関との強固な連携によるものが大きな要因である。



キャンペーンチラシ(好評だった初回キャンペーン)



操作画面(わかりやすい操作画面が特徴)

長岡市共通商品券協同組合

住 所：〒940-0061
新潟県長岡市内町二丁目6番地22
ホクエンビル4階
U R L：https://nagaoka-shohinken.jp/
設 立：昭和62年5月
出資金：4,670千円
主な業種：小売業、飲食業、サービス業
組合員数：180人



当組合員の培ったノウハウと、早い段階で行政をはじめとする関係機関と強固な関係を構築できたことが、大きな成功要因である。